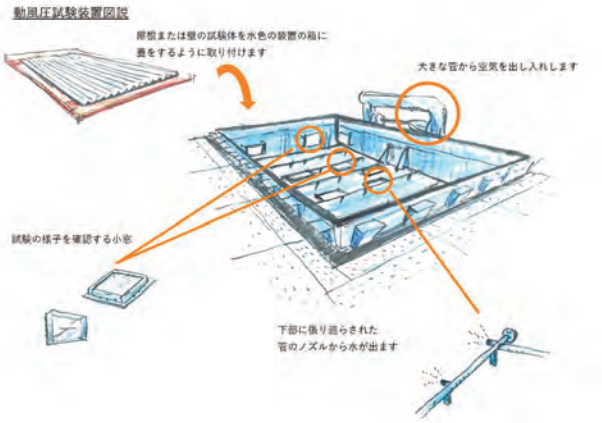
小林 渓太(岐阜)
三晃金属工業株式会社
〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄2丁目11−30 セントラルビル 4F
TEL：052-385-4562　FAX：052-385-9311

環境変化に対応できる新製品を開発

私たち三晃金属工業株式会社は金属屋根・外壁を中心とした建築建材の製造と施工を行っております。金属屋根の製造とひとえに言っても、製品リリースまでの道のりは長く、皆様にご提案できる形になるまでには長い歳月がかかります。

昨今、台風の大型化・多発化、ゲリラ豪雨など年々厳しくなる環境変化に対応すべく、自社の技術開発センターでは、動風圧試験装置を使って試験を行っています。動風圧試験装置…平たく言えば、屋根材や外壁材に風や水を加えて、疑似的に台風などを再現する装置です。薄板金属板の外装建材として最も汎用的な折版屋根ひとつとっても、耐風圧・水密性・耐荷重等、多くのクリアしなければならないポイントがあり、さらに機能性やコスト、施工性、といった面で新たな付加価値を付けて、「新製品」を開発しています。

近年、当社がリリースした「サンコールーフロック85」もそういった経緯を経て生み出されました。ルーフロックはルーフデッキと総称される重ね式の折版をリニューアルした製品です。従来のルーフデッキは屋根材をボルト固定で取り付けていましたが、ルーフロックは嵌合式の為、ワンタッチでの取付が可能です。その為、施工時間は従来製品の６０％低減が可能となり、ボルト部からの漏水や腐食といった耐久性にも優れています。馳式折版と比較しても、表面に折版同士の結合部が出ない為、スマートなデザインとなっており、新築はもちろん、ルーフデッキと山幅を合わせているので、既存の屋根への断熱カバー改修等にも最適です。



この先も製品含め、会社として進化し続けられる様、皆様と少しでも多くお話する機会を頂ければ幸いです。お問い合わせ心よりお待ちしております。

2022 7 JUL No.406

ARCHITECT

THE JAPAN INSTITUTE OF ARCHITECTS

CONTENTS

法人協力会通信 57
三晃金属工業株式会社 ―― 表紙裏
小林 渓太

地域会だより ―― 1

連載【隔月 全6回】
morinosに見る木造建築の設計手法
第2回 –構造計画と光のデザイン– ―― 2
辻 充孝

地域会長就任にあたって ―― 4
石橋 剛・森 哲哉・内田 実成・森本 雅史

2022年度愛知地域会総会・東海支部総会
総会記念講演会報告 ―― 6
関口 啓介・生津 康広・近藤 万記子

静岡発:総会記念講演会
建築家の発信力 ～講師:後藤 連平 氏～ ―― 8
清 峰芳

三重発:総会記念講演会
建築家・藤井厚二と聴竹居 ～講師:松隈 章 先生～ ―― 9
山本 覚康

第27回JIA東海学生卒業設計コンクール2022 ―― 10
最終結果のお知らせ

JIAに入会して ―― 10
寺田 智之・早矢仕 アレマン 耕平・伊藤 大智・多湖 弘樹

自作自演 249
ローズガーデン(都市公園) ―― 11
三宅 晶信

富士山に想う ―― 11
鈴木 浩

保存情報 第247回
データ発掘：コルゲートハウス
～食べられる森「フードフォレスト」～ ―― 12
冨田 正行

編集後記 ―― 12
若林 亮・江川 静男

JIA建築家大会2022沖縄 案内 ―― 13

地域会だより 今後の予定

■JIA東海支部
・7/8 役員会

■JIA静岡地域会
・7/14 役員会

■JIA愛知地域会
・7/15 賛助会企業PR、役員会
・8/5 役員会、暑気払い予定

■JIA岐阜地域会
・7/21 役員会
・8/18 役員会
・8/27 ＪＩＡの窓① 開催

■JIA三重地域会
・8/5 第3回役員会、第２回例会・会員研修会、納涼会予定

表紙 街で見かけた風景 ④ ▷「二つの街の顔」

建物からあふれ出した花たちが朝早くから整列をして賑やかに出迎えてくれる街。午後になると花たちは棲家に帰って行き静寂が訪れる。

名古屋市中区松原の花木市場の朝と夕方。営業日には2時ころから12時くらいまで市場が開場している。

吉元 学（JIA愛知）
ワーク○キューブ／愛知淑徳大学

morinosに見る木造建築の設計手法【全6回連載】

第2回 構造計画と光のデザイン

耐震性能を高め、屋外に開かれた開放的な室内空間。外部に丸太のトラス架構が見える。

1. はじめに

morinosでは、自然体験プログラムに代表される屋外活動が多く、安全管理のために外へ視線を抜きたいという要望と、子どもから高齢者まで様々な属性の方を迎えるため、安心して過ごせる高い構造性能の両立が求められた。

一般的に木造建築の構造は、耐震・耐風性を確保するために耐力壁を用いるが、それでは屋外への見通しが遮断されてしまう。今回は見通しを確保する構造計画の考え方とそれによって得られる昼光利用、照明を含めた光のデザインについて解説する。

2. 構造計画の考え方

不特定多数の利用施設という特徴から耐震性能を建築基準法の1.5倍程度を確保する目標を立てた。また、活動の中心となる「はだしの広場」のある南面、東西面への見通しをなるべく確保する必要があった。

この難題を解決するために用いた構造計画はいたってシンプルである。

柱や梁といった構造架構を自重や積雪荷重などの鉛直荷重だけを支持するだけではなく、地震力や風圧力などの水平力も負担するようしたのである。

まず、構造架構単独の構造解析（一般的な線形構造解析）を行い、東西、南北方向の許容耐力を求める。これで、一般的な耐力壁の構造計算（許容応力度計算）と組み合わせることができ、構造架構での不足分を主に北面に配置した収納庫等の耐力壁で補った。

具体的には、３次元構造解析により特定変形時の耐力を構造架構の許容耐力（東西方向：168kN、南北方向：157kN）とし、1mあたりの等価耐力壁の壁倍率（東西方向：8.58倍、南北方向：16.03倍）を算出した。ここから安全側に、設計用の等価耐力壁の壁倍率（東西方向：7.20倍、南北方向：13.30倍）とし、面材耐力壁を組み合わせて構造計算を行った。

開放的な空間が実現できたのは、第１回で紹介した丸太のV字柱の貢献が大きい。東西、南北に傾けてトラス状に組むことで、水平力を負担させた。同時に軸組と耐力壁に力を伝達させるため、水平構面にCLT面材を利用し建物の一体性を高めた。

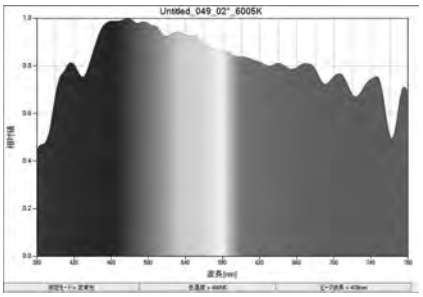
ここで注意したいのは、構造のモデル化である。木の接合部は完全な剛接合にはならないため、木造の接合部の特徴を捉えたモデル化を考えること、木材の材料品質・乾燥・施工精度のばらつきなどの不具合を考慮した設計用の許容耐力に低減することに配慮が必要である。

3. 太陽光の豊かな光

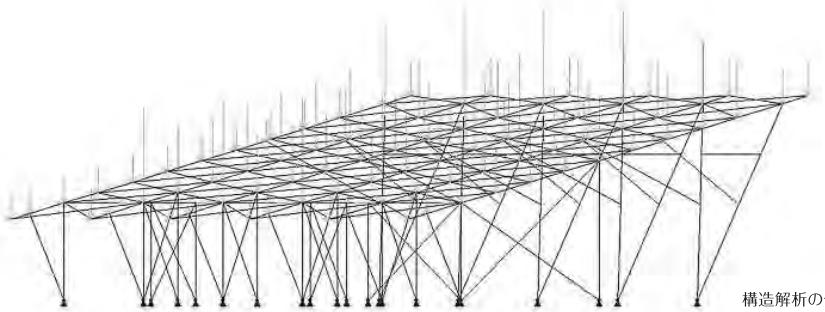
外壁をガラス張りにしたことによるメリットは見通しの他にもある。太陽の光と熱を取り込むことに貢献しているのである。

光環境は①時間のリズム、②強度・明るさ、③質（スペクトル・色温度）が大切であり、まず考えるべきは太陽光を活かすことである。なぜなら、太陽は朝から夕方にかけて動く光源であり、色温度と明るさを変えながら時間のリズムを作ってくれるからである。

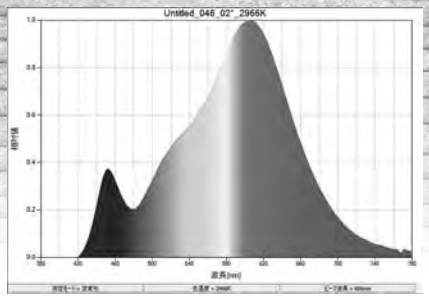
morinos内部で測定した朝の光のスペクトルを見ると、鮮やかなスペクトルで空間



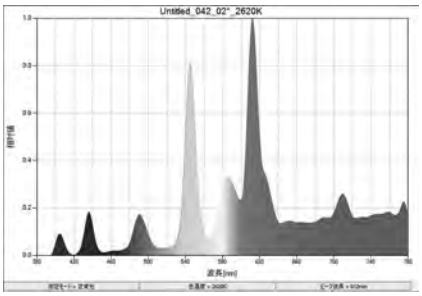
morinos内部で測定した朝の太陽光スペクトル
※横軸は波長（スペクトル）を表し、左の紫（380nm）から緑、黄色を経て、右の赤（780nm）を示す。
縦軸は強度の相対値（0～1.0）を示す。



構造解析のモデル化

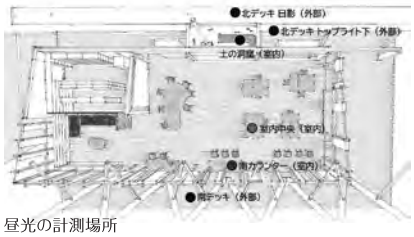


morinosのLED（電球色）のスペクトル

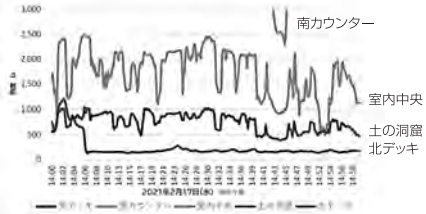


森林文化アカデミーの蛍光灯（電球色）のスペクトル

本学学生が作成した3Dモデルに配光データを埋め込んだシミュレーション



昼光の計測場所



昼光の計測照度

が照らされているのがわかる。

一方、照明器具のスペクトルは、morinosで使用したLEDは青色光が抑えられた比較的滑らかな光に対し、一般的な蛍光灯（電球色）では、赤と緑の光が突出していることがわかる。このようにスペクトル分布を見れば、昼光の豊かさがわかる。

4. 昼光の実測

2021年2月17日（水）14時～15時に室内外の５か所で照度実測を行った。

計測場所は①日当たりの良い外部南デッキ、②直遮光のあたる室内南カウンター上、③室内中央の机の上（直射光が当たらない室の中央）、④室内北の土の洞窟（光が届きにくい位置）、⑤外部北デッキである。

屋外①は10,000 lx（曇り）～85,000 lx（晴れ）まで８倍以上の差がついた。直射光の当たる室内②は、2,500lx（曇り）～45,000lx（晴れ）まで変化している。直射光が当たらない室内中央の机上③は、500 lx ～2,500あたりで推移しておりオフィス環境として、少し明るめだが適切な明るさで推移している。室内北のベンチ上④は、500 lx ～1,000で落ち着きのある過ごしやすい照度になった。北外部デッキ⑤は150 lx ～200程度で安定しており、通路機能として適切な光量が確保されている。

昼光を計測すると、直射光のあたる照度は、雲の影響で激しく変化していたが、直射光の当たらない室内では、多少の揺らぎがあるものの、安定した照度が得られており、空間的な光のグラデーションがあった。

この光の揺らぎのリズムとグラデーションが、心地よさの源になっている。

5. 照明計画の考え方

昼光は天候に大きく影響を受けるため、活動内容によっては照明で補助する必要があり、夜間の利用ともなれば照明は必須となる。

照明の役割は４つの段階に区分できる。最も基本的なことは段差や危険物を察知して安全性を確保するための①安全性の確保であり最低限の明るさである。次いで、活動に合わせた②視認性（照度）の確保である。この安全性と視認性は「光の量」でコントロールする。

次に色温度やスペクトルの豊かさから得られる③快適性である。最後に空間や雰囲気を演出すための配置や調整機能を備えた照明による④演出の付与である。この快適性、演出の付与は「光の質」を向上させる必要がある。

morinosでは、基本設計段階で、3Dモデルを活用したシミュレーションを行うことで、安全性、視認性、快適性、演出の付与について検討した。

具体的には、照明回路のゾーニングを行い、利用者が空間ごとに入切りを行うことができ、調光によって照度もコントロールできる。室内照明は全て照明ダクトで構成され、活動に応じた配置転換が可能である。また、LEDの中でもスペクトルが比較的安定した光源を選択した。

また、様々な活動に対応するため照明器具を天井スリット内に配置し建築と一体でデザインした。

6. 終わりに

心地よさは、光や熱などの物理的要素や機能的、心理的要素、美しさの相互作用によって生み出される。建築計画においては、同時並行で様々な要素を解いていく必要があり、全体のバランスが重要であると考えられる。今回取り上げた、構造と昼光利用の両立、光の実測がヒントになれば幸いである。

構造実測の常時微動測定結果や、昼光計算結果、輝度画像、紫外線実測など、morinosのより詳しい内容は建築秘話
（https://www.forest.ac.jp/facilities/morinos/）
を参考

岐阜県立森林文化アカデミー
教授　**辻 充孝**

地域会長就任にあたって

静岡地域会長 **石橋 剛**

会員の建築家人生に貢献できる活動を

このたび、静岡地域会長に就任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

今の率直な気持ちですが、私のような若輩者で務まるのだろうかという不安と、少しでも面白い活動をやっていこうという意気込みが半々くらいです。たまたま、先日の東海支部総会の懇親会の場で、岐阜と三重の新地域会長と同じテーブルとなり、聞くところ、お二人とも私とほぼ同い年、会員の若いほうから数えて〇番目といったことで、アラフィフという年代はこういう役割があるのかもしれません。おれも頑張らないといけないという気持ちになりました。

この4年間は、運営局長として地域会の運営に携わってきたのですが、運営に関して大きな転換点だったのが、1年前の事務局員の退職を機に、事務局員を置かない運営に切り替わったことです。人件費が削減できる分、役員の間で分担する運営業務が増えました。今後は、運営業務を効率化し魅力的な事業に注力するということをさらに進める必要があると思います。現在、正会員・準会員あわせて45人となりました。会員にとって魅力的な活動が会員数の増加につながるということを念頭に活動内容を考えていきたいと思います。

今年度の事業計画については、任期の1年目として、コロナ禍により停滞していた活動を再開するところからやっていきたいと考えております。まだまだしばらくはコロナの流行に注意しながらの活動となりますが、オンラインによるイベント開催など、やり方を工夫しながら進めて参りたいと思います。また、オンラインだけでなく、建築ウォッチングなどのイベントも再開させたいと思います。

これまで先輩方が築かれてこられた静岡地域会を引継ぎ、会員の建築家人生に少しでも貢献できるような活動を行っていきたいと思います。

愛知地域会長 **森 哲哉**

長期視点に立ち、先を見据えた活動

この度、愛知地域会長を務めさせていただくことになりました。2年間よろしくお願いいたします。

JIAとの出会いは、学生時代に遡ります。当時大学には、旧家協会の会長や副会長を務めた建築家が教鞭を執られており、建築家とは、気高く、まるで雲の上の存在のようでした。また、研究室では報酬規程（公取問題）の論戦についても話があり、制度や法を変えることの難しさも知りました。その後、設計事務所勤務、独立をへてJIAに入会し、地域で活躍する多くの建築家を知り、心動かされました。今こうして活動を続けているのも、様々な建築家の姿に励まされて来たからだと思います。

さて、コロナ禍に見舞われ十分な活動ができない状況が続いていますが、今期は感染に配慮しながら対面による活動を行って参ります。以下の3点を基本方針として取り組む所存です。

1.地域に根差した公益事業

愛知地域会では、小学校での「建築教室」、建築ワークショップ@豊橋、大学での「建築家の仕事」、「建築家+」の発行など地域に密着した活動が行われています。「地域に根差した公益事業」を基軸とし、継続発展に取り組みます。

2.地域会のアップデート

長引くコロナ禍により、デジタルの活用が社会に広がりました。この変化を前向きに捉え、オンラインと対面を使い分け、対話や交流の機会を増やし、社会への発信の仕方、インクルーシブな会のあり方を模索します。

3.未来に責任ある活動

パンデミック、気候変動、複合災害、AI、格差社会など地球規模の課題が蔓延しています。これらに対してどう向き合うのか。建築関係団体、行政、市民、学生などとの対話と連携、倫理の共有が必要と考えます。また、建築基本法、近代建築の保存、設計者選定や発注者支援に関する議論も浮上しています。

より良い建造環境のためには、建築家が必要です。これからも建築家が生まれ、活躍できるよう業務環境の改善に取り組みます。皆様のご理解とご協力、積極的な参加をお願い致します。

岐阜地域会長 **内田 実成**

会員拡大と会員力向上

この度、JIA岐阜地域会長を務めさせていただきます内田実成と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

2017年に入会させて頂き、6年目となります。その間に、事業担当、会計担当、副会長兼支部幹事、東海住宅建築賞委員会への出向など、事業企画や事業費管理費、司会進行等多くの経験をさせて頂きました。これまで会員としては、貴重な体験ばかりさせて頂きました。岐阜地域会は、人数が少なくギリギリの状況で運営しているのが現状です。その中で近年コロナ禍における影響もあり事業の中止、会員の減少など辛い問題にも直面しました。

今年度は、地域会長として会員拡大、会員力向上を方針に掲げて活動します。JIAは、建築業界のリーダーとなり、地域社会の輝ける人財として活動の本質を考え、歩みを止めず活動を行っていかなければなりません。JIA岐阜地域会は、今年度も「JIAの窓」を中心に開催し、会員拡大に努め、そして建築を通してより多くの方々と学びと交流を深め、会員力の向上にも努めたいと思います。

昨年に引き継ぎ、

①会員非会員建築家、学生、職人など意見交換の場として建築設計業界全体の意見交換の場を提供し学び交流深める事業

②他地域会と連携し協働で事業を行う事で、地域会のスケールを超えた事業展開を学び、交流を深める事業

③建物見学会を通し設計手法や交流を深める事業

④建築や製造業施設等を見学し、見識を広め自己研鑽の場となる事業会員外参加者も募り交流を深める事業

を実施し、岐阜地域会の会員拡大と会員力向上に努めます。

本部、東海支部の事業や委員会の報告も、岐阜地域会に落とし込み、会員同士での情報の共有にも努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

三重地域会長 **森本 雅史**

機会・交流・発信でより充実した活動を

この度JIA三重地域会の会長を仰せつかった森本雅史です。よろしくお願い致します。三重地域会における事業活動は、これまでの先輩方の尽力により継続されてきた「建築文化講演会」「建築ウォッチング」「（アーキテクトみえ）の発刊」に加えて近年は、建築学生や子供たちへの建築を学ぶ場づくりを軸とした「建築教育支援」の活動へと広がりつつあります。今年度は上記の活動をより充実することに加えて、下記3つのテーマをつくりました。

①機会／三重県は、東海と近畿の接点であることから、その場所的優位性を生かした経験や知識を会得できる機会をつくりたいと考えています。その第一弾として、総会で記念講演会をして頂いた「聴竹居」の松隈章さんに6月に現地の案内をお願いしました。京都・大山崎に現地集合でありながら多くの会員の参加がありました。「本物と出会う機会」をひとつでも多くと、委員長のみなさんにもお願いしています。

②交流／コロナ渦ということもあり、会員同士、法人協力会員との交流が少なくなっています。今年度より交流を促進するきっかけづくりをして、協力会員のアピールタイムを各例会前に設けることにしました。1年分の予定が早速に埋まり、期待の大きさを感じています。ぜひ有益な時間となるようにこの機会を生かしていきましょう。

③発信／活動した内容の発信に加えて、これまでの活動記録を残していく作業が必要だと感じています。その記録の蓄積は、地域社会に対し、又は将来地元三重に戻って活躍する建築家たちにバトンを繋ぐ上で大きな財産になると考えます。その内容を見ることで社会や地域の課題が浮かび上がってくるかもしれません。HPの改良等でその準備を進めていきたいと思います。

少数精鋭ではありますが、県内の無類の建築好きが集まる団体として、前向きに今年度も建築を通して社会に貢献していきたいと思います。みなさまのご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

2022年度愛知地域会総会・東海支部総会・総会記念講演会報告

2022年5月13日（金）、ラグナスイート名古屋にて愛知地域会総会、東海支部総会、JIA会長の六鹿正治氏ご挨拶に続き、次期会長予定の佐藤尚巳氏の講演会が開催された。
コロナ対策のため、会場での参加者数に制限を設け、WEB参加も併用での開催となった。

ONE JIA を目指して

愛知地域会総会の様子

2022年5月13日（金）ラグナスイート名古屋にて、JIA東海愛知地域会総会及びJIA東海支部総会が開催され、JIA六鹿会長からご挨拶をいただいた。初めての会場で音響等セッティングの不具合もあったが、会場側の協力と会員の努力により無事終了の運びとなった。会場は優雅で、久々に合わせる顔も喜々としていて、集合形式で無事終えることができたのが何よりの喜びである。

JIA東海支部愛知地域会総会は、司会を西村和哉会員、来賓に水野豊秋 東海支部長・本部理事、大瀧正也 次期東海支部長・本部理事を迎え開催された。開会に先立ち物故会員への黙祷が捧げられ、冷静沈着な澤村喜久夫地域会長からの挨拶を皮切りに、開会が宣言された。定足数が確認されたのち、石田壽会員を議長に、間瀬高歩会員を議事録作成人に、川本直義会員、杉本憲治会員が議事録署名人に選任され議事が進行された。

第１号議案及び第２号議案について澤村喜久夫地域会長より説明があり、谷村茂監査より監査報告があった。意見・質問は特になく賛成多数で承認された。第３号議案について藤巻志伸選挙管理委員長より報告があり、意見・質問は特になく賛成多数で承認された。2022年度事業計画及び2022年度予算について森哲哉 新地域会長より報告があった。意見・質問は特になく、すべての議事終了を確認して、議長は退任。

JIA東海支部総会は、司会を森哲哉会員がされ、物故会員への黙祷が捧げられ、集合形式を強く望まれた水野豊秋支部長の挨拶を皮切りに、開会が宣言された。定足数が確認されたのち、小田義彦会員(愛知)を議長に、見寺昭彦会員(愛知)を議事録作成人に、澤村喜久夫会員(愛知)、間瀬高歩会員(愛知)が議事録署名人に選任され議事が進行された。第１号議案について水野豊秋支部長より説明があり、第２号議案について森哲哉支部幹事長より説明があり、鳥居久保支部監査より監査報告があり、意見・質問は特になく、承認された。第３号議案について矢田義典東海支部選挙管理委員長より選挙結果の報告があり、意見・質問は特になく、承認された。

2022年度事業計画について大瀧正也新東海支部長より報告があり、2022年度予算について関口啓介新東海支部幹事長より報告があった。意見・質問は特になく、すべての議事終了を確認して、議長は退任。

六鹿会長からご挨拶をいただいた。六年間にわたりJIAを牽引され、コロナ禍における難しい組織運営においても、強力なリーダーシップを発揮されたその思いをお話しいただいた。

1.知識レベルの向上～私塾のごとく
2.活動連鎖の誘発～連歌のごとく
3.社会的活動～運動のごとく

3つの目標を明確に定めて進めてこられたことを改めてご説明いただいた。それぞれを独自に追及しながらも全てが絡み合い前進していく様は、緻密な計算とそれを超える動きがあり、そこに予定調和に納まらないJIAの可能性を示していただいた。これからJIAは資格制度をめぐり大きな議論のなかに入り込む可能性があるが、ONE JIAを目指して進んでほしいとの切なる願いが込められていた。

澤村喜久夫 前愛知地域会長

会場の様子

水野豊秋 前支部長

佐藤尚巳 氏（左）と 六鹿正治 氏（右）

関口 啓介（JIA愛知）
人建築事務所

JIA現会長の六鹿氏のご挨拶の後、後継者となる次期会長予定者の佐藤尚巳氏の講演会が開催された。
佐藤氏は、略歴の紹介に続き、これまでの自身の設計実績について丁寧に説明され、最後にJIA会長としての抱負を語られた。
以下に、講演会に参加されたJIA東海支部会員の2名の感想等を掲載する。

佐藤尚巳 氏 講演会の様子

佐藤尚巳氏 講演会感想

5月13日の支部・地域会総会に合わせて行われた佐藤尚巳JIA新会長の講演を拝聴した第一印象は、経験主義、実行主義の人であるということ。過去の会長の印象とは異にする。菊竹清訓建築設計事務所、ハーバード大学、I.M.Pei and Partners、ラファエルヴィニオリ建築士事務所での仕事や、1992年のJIA入会後の国際委員会委員、本部理事、AIA参加などの経験から得られた感覚をもとにして所信を語られた。冒頭、今回の来名の目的は自身の所信を地方会員に伝えることよりも、地方の会員の意見を聞くことにより会員の意識や抱える問題を把握することにあると語られた。AIAとJIAとの比較、日本と米国との建築家の意識の比較もすべて佐藤新会長自らのJIA理事、AIA参加、米国での事務所勤務がベースとなっており、そこからJIA、そして建築家のこれからを示されていた。

米国の建築家は建築主の満足感と、建築家の創造欲求とのバランスに重きを置いていることに対し、日本の建築家はどうか。建築家は「三方良し」の精神で建築主、公共への貢献を実現することを通じて自らの満足感を達成すべき。そのために常に研鑽し続け、建築主や社会からの信頼を得る努力が必要とのこと。また、JIAとしては建築家の価値、その公共性をPRし、ブランド価値構築を目標に掲げられた。

会員数約7000名で1987年に発足したJIAの丹下健三初代会長の文章では、職能法の確立、国際化の文字が目立っている。また当時「建築は自己主張の表現」だったようだ。その後歴代会長の文章は「建築家資格制度」の目的が「世界標準の建築家資格」が「市民に分かりやすい建築家の職能資格」に変化し、新会長の今回の講演では「建築家資格制度」の言葉は聞かれなかった。また発足当初の中央集権的組織から徐々に地方の活動に軸足が移り、会員サービスが改善されて来たことは、佐藤新会長も体験談として語られたことでもある。

歴代会長がその時代の課題に対し解決策を提示し実行されてきた蓄積として今のJIAがある。建築家の社会への対し方も時代とともに変化してきた。今年度JIAもアップデートされる。佐藤新会長ヴァージョンが楽しみである。

生津 康広（JIA愛知）
生津建築設計室アーキハウス

建築家の価値 JIA の価値

そしてバトンは渡された、という雰囲気で佐藤新会長の講演が始まった。前段で六鹿現会長の講演があったからだ。六鹿さんには業務でもJIAでも「組織」をまとめる、変化させる、動かせる方とのイメージをもっていたが、それは単に手法。六鹿さんが私達に伝えたかった実現したいミッションは建築家のリーダーシップ強化、だった。

ところが佐藤新会長は「業務の公益性こそ建築家の価値である」と（ソフトにだが）言い切った。少しだけ重要視する視点が違う。

佐藤新会長の講演の前半は自己紹介がわりの時系列の経歴・作品だった。東大、菊竹清訓建築設計事務所、ハーバード大学、I.M.Pei and Partners、ラファエルヴィニオリ建築士事務所を経て41才で独立、ということで高スペックな上にご自身の方向性とキャラクター設定能力に長けてもみえるのかと納得だった。

講演で印象深かった部分。建築家はサービス業で作品を作るのではなく施主の求めていることを実現することでフィーをもらうビジネスである。その仕事自体に自分の美観を100％中５％でもとりいれられれば、くらいであり、主には顧客満足度をめざしている。しかし本当の仕事の価値は客よし自分良し世間よしのバランスにある。客と自分と２者の満足感ではなく周辺環境の改善につながるような効果をうむ公益性をになう、自意識のある専門家が社会的には建築家しかいないというのである。　これが佐藤さんの建築家の業務の公益性だ。

建築家の公益性に話が向いたとき、パブリックリレーションズ（主体と公衆の望ましい関係を構築・維持する営み）を重要だと述べられた。このマネジメントへの感度の高さに期待感をもった。自称アトリエ事務所の佐藤さんの言葉は アトリエ事務所の私にはしみいるのだった。

佐藤尚巳 氏

建築家の価値を広くPRすることで「JIA」の公共イメージの向上とブランド価値を構築していく佐藤さんの考えるJIAの未来。そして「頼りになる建築家、頼りになるJIA」が最終まとめのレジメに記されていた。あれ?六鹿さんの建築家のリーダーシップ論に戻った・・?

全体に佐藤さん、六鹿さんお二人共に建築家職能団体の外郭がAIAの組織イメージがあるように感じたが、どんなに良いモデルでも現存・過去のものである。また建築物自体はドメスティックで往々に建築業界は時代の動きに対して封建的で閉鎖的。国の格差などを感じやすい。では変化の早いこの時代にどのように地方都市で自分たちの「価値」をみつけるのか、探し続けることが私達の仕事だったり、JIA活動だったりするのだろうなと感じる講演だった。

近藤 万記子（JIA愛知）
ホームデコール設計事務所合同会社

建築家の発信力

●日時：2022年4月26日（火）
●講師：アーキテクチャーフォト運営 後藤 連平 氏

建築設計者の情報発信のメディアとしてWEB、SNSは今や日常になっている。

私個人もインターネットが一般に普及し始めた当時、遅れまいと見よう見真似でHPを立ち上げ、仕事の受注面でも、自分の仕事内容の発信でもそれなりに効果はあった。（今はインスタ共趣味のページに突っ走ってしまっているが・・・）

JIAも建築家の職能を一般の方にアピールする手段として良いのはわかっているが、HP BLOG FB INSTAGRAM TWITTERと広がって、今後どのように使い分けるか等々、その他ヒントになるような座談会が開かれた。

テーマは「建築家の発信力」と題し、建築と社会の関係を視覚化するメディア「アーキテクチャーフォト」を運営されている後藤連平氏にWEBで参加いただきJIA静岡からは新会長の石橋剛氏を座長に、鳥居久保、高島ゆかり、渡辺隆の4名の方々が参加された。

後藤氏は設計活動の後、2003年建築意匠に特化したWEBでの情報発信に転向し、WEBサイト「ARCHITECTURE　PHOTO」を立上げ、現在15万人/月が訪れ、50万のページ情報を持つまでに育て上げられた。また派生した求人サイト、「ARCHITECTURE PHOTO JOB」、古書、雑貨のオンラインショップ「ARCHITECTURE PHOTO BOOKS」の運営もされている。

まず4名の方々から各々の仕事環境の立場で、WEB利用の仕方、問題点等を語っていただき後藤氏にアドバイスを求めた。

●各々求めるものが異なるが直接仕事を求めるより、ゲストから信頼される発信が必要

●より多くのゲストに発信するにはTWITTER, INSTA、FBなどのSNSが一度に拡散しやすい

●設計者の人柄、個性が感じられる

●事務所の仕事の年代毎の変化が読み取れる

などが必要ではないか、またHPも、時系列の中で事務所の仕事が変化していくと内容が整理しにくくなる点は、一般向け、専門向けに分けるなどの工夫も必要などの助言をいただいた。

＜座談会＞
建築家の発信力
～後藤連平氏（architecturephoto 代表取締役 / 編集長）を囲んで～
※後藤連平氏はオンラインでの参加を予定しております

2022年4月26日（火）15:00~17:00
会場：静岡市産学交流センター（Zoom 併用）
参加費：無料
参加方法：会場または Zoom
募集人数：静岡市産学交流センター　50名
Zoom　200名
CPD：単位2

©Kenta Hasegawa

座談会登壇予定者
鳥居久保氏（企業組合針谷建築事務所理事長）
高島ゆかり氏（一級建築士事務所アトリエ結代表）
渡辺　隆氏（渡辺隆建築設計事務所代表）
石橋　剛氏（合同会社石橋剛設計事務所代表）

申込方法：
・Zoom 参加の方 ⇒ Zoom 用 QR コードより申込みください
・会場参加 ⇒ 会場参加用 QR コード または FAX にて申込みください。

（公社）日本建築家協会東海支部静岡地域会（JIA静岡）事務局
静岡市葵区昭和町3-1-603
FAX 054-221-8865
E-mail jia-shizuoka@hyper.ocn.ne.jp

その他、鳥居氏から「建築設計行為の近年の変化にどう対応すべきか」との問いかけがあった。これに対し2003年頃までは公共建築を始めとした新築物件の設計が主だったのが以降少なくなり～2010の10年は、建築がコンポジション（構成）からインスタレーション（場の体験）にまで広がり、作家のイメージ、個性、人柄まで求められる時代になってきた。

～2020はリノベーションなど、対話型の中で多くの余条件を整理しながらともに作り上げゆく作業が重要になり、仕事の領域も広くなってきている。

これらの変化を社会・行政にもアピールし、組織としても設計料をはじめ新しい時代の変化に対応したシステムの提案が必要ではないか？などJIAにとっても取組む課題にヒントをいただいた。

「アーキテクチャーフォト」への投稿の掲載基準は

1.哲学のある建築
2.地域性の重要さに向き合っている建築

をあげられた。

座談会には会場約30名、WEB参加30名が参加され、2時間が短く感じられるくらいだった。

また一方で重要な建築の技術的側面も、もっとWEB上で訴える必要を感じながらもおぼろげながら、今後の建築設計とWEBの関わりのヒントを得るとが出来たような気がする座談会だった。

清　峰芳（JIA 静岡）
清建築設計事務所

建築家・藤井厚二と聴竹居

●日時：2022年4月27日（水）
●講師：株式会社竹中工務店 設計本部副部長／一般社団法人聴竹居倶楽部 代表理事 松隈 章先生

2022年4月27日、JIA東海支部三重地域会の通常総会が開催され、同日、総会の記念講演会が開かれた。講演のテーマは「建築家・藤井厚二と聴竹居」講師は株式会社竹中工務店設計本部の副部長であり、一般社団法人聴竹居倶楽部の代表理事も務める松隈章先生。講演はWEBを使用して聴竹居の現地から話をして頂く形式だった。

冒頭、松隈先生が自らの生い立ちを話された。関東、関西を始め、九州から北海道まで、日本全国さまざまな土地で生活された経験。幼少の頃から青年期にかけて、高度経済成長期の都市部と田舎、両方の風景を一覧出来た経験は、先生の建築や都市に対する考え方の基盤を造り、時代を超えた価値を持つ建築を見る目に繋がっているという。

藤井厚二、そして聴竹居との出会いは偶然だったと松隈先生は語られた。現在、国の登録有形文化財である芝川邸の企画展示「芝川邸と武田五一展」の調査、企画に携わった事がきっかけとなり、藤井厚二が竹中工務店の社員として、同社の黎明期に関わっていた事や、藤井の自邸である聴竹居が現存している事を偶然知った。これらの発見が発端となり、先生は「聴竹居を実際に見たい」という願いを持ったと語る。偶然にもその後、様々な人との出会いによって、聴竹居訪問という願いは叶うのだが、それには三重県立美術館で行われた「二〇世紀日本美術再見一九二〇年代」という展覧会が深く関係している。当時の県立美術館の学芸員（桑名さん）と「芝川邸と武田五一展」で偶然話された事が契機となり、聴竹居が同美術館の展覧会で紹介されることになった。この機会に、松隈先生の聴竹居訪問が実現されたそう。偶然と言えば偶然なのだが、私には聴竹居に対する松隈先生の純粋な思いと、出会いを大切にする人柄が感じられ、とても興味深い内容だった。

聴竹居（写真提供：竹中工務店　撮影：古川泰造）

聴竹居について松隈先生は、藤井厚二が提唱する日本の住宅についての理論と、それに基づく藤井の設計手法を紹介された。日本の住宅が欧米の模倣となりつつある事を憂いた藤井は、自著「日本の住宅」（1928年　岩波書店）で10項目について和風と洋風の住宅様式を比較し、環境工学に基づいた自らの考えを述べている。その一例である「床下や地中から外気を導入し室内へ導く」という考えが、聴竹居では、地中の風道を通して外気を室内へと取り込む「クールチューブ」として実践された。単に西洋との様式比較だけでなく、日本にとって最適な住宅様式のあり方を、環境という切り口で提言した藤井の先見性に感心させられる話だった。

今回の企画でとりわけ良かった点は、講演が現地からのLIVE中継であった事だ。講演の最中、松隈先生が聴竹居内部の状況を手持ちカメラで画面に映しながら、解説を交え、私たちに紹介して下さった。私は、これまで一度も聴竹居を訪れたことが無かったので、このような形で現地を見て（画面を通してとはいえ）講演や資料だけでは分からない、生の空間を味わえたので、とても有意義な時間を過ごせたと感じている。

聴竹居は2016年12月から竹中工務店の所有になっている。（日常の運営管理は一般社団法人聴竹居倶楽部）講演の締めくくりとして松隈先生は、これからの聴竹居保存への取り組みと、施設としての運営の展望を話して下さった。現在ではその価値が評価され、メディアでの紹介や、高校の家庭科の教科書にも掲載されているという聴竹居。しかし、保存的観点や経営上、知恵を絞らなければならない部分はまだ多いということ。将来的には敷地全体のランドスケープも含め、藤井厚二が建てた当時の姿の再建を目指しているということだった。あまりにも興味深いお話の数々は、この文面では紹介しきれない。ぜひ皆様には松隈先生の著書「木造モダニズムの傑作　聴竹居　発見と再生の22年」（ぴあ株式会社発行）を御一読頂きたいと思う。

山本 覚康（JIA 三重）
山本一級建築士事務所

第27回JIA東海学生卒業設計コンクール2022
最終結果のお知らせ

5月28日（土）に「第27回JIA東海学生卒業設計コンクール2022」が開催され、受賞作品が決定いたしました。
金・銀・銅賞の5作品が 6月18日（土）開催の全国卒業設計コンクールに選出されました。

金賞「**結び輪** ―地域に寄り添った新たな観光地の提案―」
濱田 紗希（名古屋工業大学）

銀賞「**郊外の杣人** ―週末林業による道具や資本を転換した市場経済外の暮らし―」
中井 勇気（名城大学）

銀賞「**住分解** ―規格化の再解釈による都市的場所性の創出―」
伊藤 稚菜（愛知工業大学）

銅賞「**日常の波紋** ―まちを辿る親水空間―」
田中 葵（静岡理工科大学）

銅賞「**路地建築はつなぐ** ―改修事例から読み解く再建築不可建築の可能性―」
北村 海卯（大同大学）

入選「**呼吸する建築**」有田 晃己（静岡理工科大学）「**アカリとカタチ**―建築が 照明となり 変化する―」渡辺 安紀（名古屋工業大学）
「**遊動の遺伝子**」中山 朋紀（名古屋工業大学）「**まちを耕す**」原 希望（名古屋工業大学）
「**50年の乱反射**」直井 和希（大同大学）

JIAに入会して

正会員

寺田 智之（JIA 愛知）
株式会社黒川建築事務所

このたびは入会させていただきありがとうございます。
新しい技術や知識を得た時の高揚感はいつも新しい場所へ自分を連れて行ってくれました。この気持ちを大切にし、JIAでの活動を通して様々な新しいことに触れていくとともに、さらに社会に役立つ建築家であるよう精進していきたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

準会員

早矢仕 アレマン 耕平（JIA 岐阜）
HAYASHI ALLEMANN ARCHITECT & ASSOCIATES

伝統のある日本建築家協会に所属することは、自身の建築家としての立場を社会に表明するマニフェストに等しいものです。現在スイスに在住している私ですが、日本に由来する建築家として、本会の建築家憲章に則り行動することで、社会への責任を果たします。今後は、建築設計だけに限らず、建築に関連した文章や作品などにも取り組めたらと考えています。

準会員

伊藤 大智（JIA 三重）
日新設計株式会社

歴史的な背景、地域風土や地域特性を読み説き、設計者の巧みな技術や多面的な視点で、できあがる建築は、建築の知識や経験で、受けとめ方や見方が変わる。JIAの活動を通し、建築というものを深く学び、多種多様な空間にふれて、自身の知見や感受性を深めたいが、素直に純粋な心で、その建築をどう感じるかという事も重宝していきたい。

準会員

多湖 弘樹（JIA 三重）
日新設計株式会社

JIAに入会してから建築散歩、建築文化講演会やセミナー等、多くのイベントに参加してきましたが、どれも自分が知らないことばかりで興味深いものでした。これからも積極的にイベントに参加して、研鑽を積んでいきたいと思います。よろしくお願いします。

ローズガーデン（都市公園）

近隣の公園で、健康増進と心身リフレッシュの休日を過ごすため、久しぶりに出かけました。

車で10分程度の公園「ぎふワールド・ローズガーデン」岐阜県の都市公園です。その日は晴天で、６月初旬の暑い日で、公園内はバラの花の開花時期でして、見渡す限り、バラの豪華な光景で散策する事が出来て健康的な一日を過ごせました。

春は一季咲きと四季咲き両方の華麗さを争うように開花して花のボリュウムを楽しむ季節でコーヒーに例えると春のバラは「アメリカン」秋の芳香な香りを保つバラは「エスプレッソ」と言ったところうで美しさと、香りを楽しむ事が出来ます。

バラの花に興味を持ち、園内のサインを見て学びました、バラの栽培の歴史、種類についても、古代オリエント（紀元前1500年頃）の地で４種の、野生バラを交雑してバラの品種が誕生したと言われ、地球の北半球に植生し、バラ園では、日本はもとより、イギリス、フランスなど世界各国のバラが今では,7000種、30000株、原種から品種改良によりハイブリット品種が公園内に咲き競い、花のタワー、アルハンブラ宮殿に似た水辺とバラ庭園、モロッコ庭園、大温室の地球館など、散策スポットとして人気を集めています。

秋に出かけると、大面積のひまわり、ケイオウ、コスモス、大温室、バラの花は春と比べると少ないが、最大の魅力である芳香な香りを期待して出かけられてはどうでしょうか。

三宅 晶信（JIA岐阜）
三宅設計

富士山に想う

コロナ、ウクライナ、値上げ等々、時事ネタは尽きないが、最近の私のトレンドは富士山。住まいは、富士山が常に望めるところなので特に気にも留めなかったが、今はちょっと違う。御殿場に頻繁に行くことも影響している。

地域ネタでは、富士山火山広域避難計画検討委員会が、噴火時の避難計画の見直しの中間報告を発表した（詳細は新聞記事等で要確認）。

この他にも発見があった。上りの新幹線では左側の車窓に富士山が見えるのだが、大井川を渡り、日本坂トンネルを超えたあたりで一瞬右手に見える右富士。富士山の南西に住む私は、必ず右裾に宝永山を描く。御殿場では宝永山は富士山のシルエットに入り込み、きれいな形を皆さんが描いている。これが、山梨側からみると宝永山はなく、もっときれいな山裾を描くこととなる。周辺ではそれぞれのイメージを持っている。

富士山を含むパースを描いたのだが、写真を参考に送ったに係わらず、海外では富士山を緑の山として最初描いてきたのにはびっくりした。また、「この富士山は山梨側からの絵だね、御殿場わかってないね。」という話も聞かされ、富士山といってもいろんな捉え方があるんだなと考えさせられました。

写真は東名高速の由比からの富士山です。宝永山が右裾にあります。

今日の富士山は、周辺地域にどんな姿を見せているか？

鈴木 浩（JIA愛知）
久米設計

循環する森

東海道新幹線で豊橋駅から車に乗り東へ20分ほど走らせる。

よくある郊外の風景を横切って奥へ奥へ進むと、突然開かれた森が広がる。車を止めて、この森を探索する。みかんやレモン、栗の木など季節ごとに楽しめる果樹が植っている。この食べられる森「フードフォレスト」は、変人・科学者・思想家など数々の異名で呼ばれた故人・河合健二さんが、かつて最愛の妻である花子さんとともに暮らしていた場所である。

そしてこの森の中央には、健二さんが設計した自邸「コルゲートハウス」が置いてある。置いてあると表現したのは、この家は基礎がなく、ただ地面に横たわらせている鉄の筒のような形態だからだ。

近隣の住人には「ドラム缶の家」と呼ばれているらしい。その名の通り工業製品であるコルゲートパイプを使って作られたこの家は、3-4日ほどでボルトで組み上げて作られた。家というものは、それほどお金と時間をかけるものではなく、生活の息吹のようにあるべきだという河合夫妻の思いがこの家には表現されている。鉄はいずれかは朽ちて土に還る。月日、長い時間の流れを読み解き設計されたこの庭と家で、自律分散型の循環する暮らしを2人は実践されていた。

工場やビルといったプラントの設備設計を行うエンジニアとして世界中を飛び回っていた無鉄砲な健二さん。対して、花子さんはこの森の開拓者である。彼女はゆっくりと確実に、2人が思い描いていた思想をこの土地におとしこんでいたそうだ。スマートフォンがなく遠方の友人とすぐに連絡を取り合うことが困難だった時代に、遠くはニューヨークまで、花子さんは手紙を添えてフードフォレストで取れた果物を詰めた小包を送られていた。その時のやりとりが、時が止まっているようにコルゲートハウスに残されていた大量の手紙から読み取れた。

自給自足ではなく、自給多足。

河合夫妻が当時持っていた思想や暮らしの実践は、先行きが見えないこの時代に生きている。私たちにとって学びが多い。生きる叡智を身につける場所作りをこの森で再び。

お問い合せ先
info@m-products.com

イベント情報
slow_back_life

冨田 正行（JIA 愛知）
エム・プロダクツ

編集後記

●岐阜県立森林文化アカデミー・辻先生の木造建築と光のデザイン「Morinos」の記事。是非一度、訪れてみたいと思いました。光をシンプルな木造、V字の丸太柱と外に向かい反りあがる木の屋根だけでデザインするって素敵です。最近、多くの学校で木造やZEB化のことを聞きますが、木でつくることありき、ZEB化にあっては数値目標ばかりが先走りしているようで。本来、そこに住まう人、働く人、訪れる人のための心地よい空間をつくった先にZEBがあるはず。もちろんパッシブだけでZEBは成立しません。でも、木の温もりを感じる、自然の光がうつろいながら変わっていく、そよそよと吹く風が心地よい、窓から見える木々の色に季節を感じる・・・そんな建築が好きです。忘れかけていることを改めて思い出しました。自戒です。（若林 亮）

●今年度から会報委員として務めさせていただく、静岡地域会の江川です。会報委員としましては初めての経験で、委員会の皆様にはご迷惑をお掛けすることと思いますがよろしくお願いします。十年ほど前に支部広報委員としては務めておりまして、本部と毎月リモートで出席し、年に一度東京での全体会議に出席という委員会でした。ある全体会議において、各支部における広報誌媒体について発表する機会がありました。メール配信に切り替える支部も出始めた当時ですが、東海支部として私は「ARCHITECT」を数カ月分持参し、各支部の方々に回覧いたしました。皆さんの感想としては、充実の内容、毎月々の発行など、各支部委員から感心された思い出があります。東海支部の一員として誇らしく感じました。その時の気持を胸に、会報委員の一人として少しでも力になれるよう努めさせていただきたく思います。（江川静男）

ARCHITECT
第406号
発行日 2022.7.1 （毎月1回発行）
定価 380円（税込み）
発行責任者 大瀧正也
編集責任者 恒川和久
編集 東海支部会報委員会
愛知地域会ブリテン委員会
株式会社イヅミ内
ARCHITECT 編集部
岡崎市明大寺町荒井10番地
TEL（0564）21-2657 FAX 26-1792
発行所 （公社）日本建築家協会東海支部
名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル
TEL（052）263-4636 FAX 251-8495
E-Mail：shibu@jia-tokai.org
http：//www.jia-tokai.org/

JIA 2022
ARCHITECT CONVENTION
JIA
建築家大会2022沖縄
首里城の輪郭
失われたことで みえてくるもの
OKINAWA
[会期] 10月20日(木)・21日(金)・22日(土)
[会場] 那覇文化芸術劇場なはーと 大劇場・小劇場
◎主　　催：公益社団法人 日本建築家協会
◎お問合せ：公益社団法人 日本建築家協会 沖縄支部
〒901-2101 沖縄県浦添市西原1丁目4番26号 沖縄建築会館内 TEL.098-943-8949 www.jia-okinawa.org/
JIA
10/20 THU -22 SAT